

税金と保険

札幌市立前田中学校 三年 中山 遼祐

病院。それは私たちの生活のすぐそばにあり、使いたいと思えばすぐに利用できます。私も病院は幾度も利用しています。受付をして、検査や施術を受け、受診料を支払って、病院を後にする。当たり前だと思いかもしれません。しかし、この一連のプロセスの裏には日本の今に至るまでの医療提供体制と医療保険制度の整備が関与しています。まず、わが国日本の医療制度において、素晴らしい特徴としては二つが挙げられます。それらは「国民皆保険制度」と「フリーアクセス」という二つの制度です。

また、これ以外にも「高額医療費制度」があてはまります。まず私たちは何らかの公的医療保険に加入しています。これによって私たちは公的機関、つまり税金によって医療費の一部を負担してもらえます。また、私たちはたった一枚の保険証のみで、病院の規模や診療科を問わず、自分の要望通りに受診してもらえます。そして年齢、所得に応じて医療機関などでの支払い総額が一定額を超えた場合に、それ以上の自己負担をしなくてもよいという制度もあります。病院の受診と一口に言っても、その裏には努力や工夫が積み重ねられて完成された制度があることを明確に理解したことで、税金が一概に私たちに悪影響を及ぼすという考えが間違いであるということを知った。しかしながら、今の日本は超高齢社会です。全国民に占める高齢者人口の割合において、日本は世界最高となっています。このような現状を鑑みて私は、「税金の在り方はこのままでいいのだろうか」と考えるようになりました。私たちの生活は、少なからず税金に支えられていることを知っている以上、税金の今の体制が維持できなくなる事態を避けるために、できることは何があるのかを改めて考える良い機会になると思います。

納税というプロセスを行う上で、重要なことは二つあることを知りました。第一に払うべき人が税金を正しく負担しているという事実を国民が共有し、信頼感を得ることです。第二に税金の使われ方の効率化と公平化です。この二つが、税金の納税と使用目的の正当化に不可欠であるといえます。しかしながら、税金について、最近のニュースで私は良い内容を聞いた記憶がありません。私が最近で議論されていたと感じるのは「政治とカネ」に関する政治資金パーティー収入の裏金が、税法に違反している可能性があるという話題が記憶に新しいと感じています。

このような事件は、税金に不信感や不満を抱く要因になるのではないかと思いましたが、税金がもたらすメリットもまた、このようなネガティブな印象を払拭し、信頼を回復するほどに大きいもののではないかと思えました。大人になり、このような税金による体制をよりよくするために、自分にできることを実行に移しながら、これからも過ごしていこうと思えました。